

2006 年前期岡山観測所プログラム小委員会議事録

日時 2005 年 11 月 25 日 (金) 13:00 ~ 17:00

場所 倉敷市立美術館第一会議室

出席 長田哲也 (委員長)、竹内覚、伊藤洋一、村山卓、
青木和光、中村泰久、岩田生 (プロ小幹事、書記)

ex. officio 吉田道利、泉浦秀行 (HIDES 担当者として参加)

1 前回議事録確認

電子メールにて前回の議事録を回覧し、了承された。

2 諸報告

特になし

3 岡山観測所ステータス報告

吉田観測所長から、2005 年 6 月から 2005 年 11 月までの岡山天体物理観測所のステータス報告があった。詳細は別紙参照。特記事項を以下に記す。

- (1) 望遠鏡、観測装置に大きなトラブルはなかったが、望遠鏡湿度センサーの不具合により、不正に高い湿度表示が行われていたため、取り決めにしたが観測者がドームを閉めたため、1.5 夜程度観測時間が失われた。湿度センサーは取り替えて正常に復帰した。
- (2) ISLE は 2006 年 10 月にエンジニアリングファーストライトを迎えた。12 月にも試験観測を行う予定。2006 年前期も試験観測を続け、2006 年後期に PI タイプ (リスクシェア型) にて公開、2007 年前期から共同利用装置として公開することを予定している。
- (3) 鏡蒸着に際して、第 3 鏡に SiO₂ コートを施した。アルコールで拭くことで反射率がよく保たれることが確認された。

4 188cm 望遠鏡課題審査

4.1 課題申請申込状況

件数 プロジェクト (継続) 1 件、学位論文支援プログラム (新規) 1 件、一般 8 件

分野別 solar system:0, stars:9, star formation:1, interstellar:0, extragalactic:0,
instrument development:0, other:0

装置別件数 HIDES 9, HBS 1

要求夜数 130 夜 (プロジェクト 36 夜、学位論文 8 夜、一般 86 夜)

但し、学位論文支援プログラムは半夜 x8 の要求。

学位論文 修士 1 博士 2

4.2 共同利用夜数決定

1月～6月のうち、1/1～3は年始休暇、6/5～30は整備期間。これらを除くと全152夜。観測所時間は43夜の希望が観測所から出された。

[観測所時間の内訳と議論]

- 観測所行事
 - 特別観望会：1夜
 - 観測実習：2夜
- 観測所時間：3夜
- エンジニアリングタイム (ISLE)：21夜
 - 3月に2週間試験観測。金星の分光観測と装置能力試験。
 - 4-5月に1週間装置能力試験。
- エンジニアリングタイム (KOOLS)：4夜 分光観測試験
- エンジニアリングタイム (望遠鏡)：3夜
- 日韓共同惑星探査計画：9夜 (1.5夜/月)

ISLEの状況について質問があり、現状と今後の予定が説明された。

日韓共同観測についての質疑

- 共同利用ベースでやらないのか？ → 韓国との話し合いで、観測所のプロジェクトとして行うことになっている。観測所時間を半分供出して行っている。
- 成果発表はあるか？ → 2005年天文学会秋期年会で報告した。2006年春にも発表を行う予定で、その後も年一回程度発表する予定。
- 佐藤文衛氏のプロジェクトとの関係は？ → プロジェクト観測よりも暗い対象。韓国の装置はHIDESよりも効率が高く、暗い天体をターゲットとしている。

観測所時間が3夜というのは少なすぎないか、という意見がプロ小委員から出たが、ISLEのエンジニアリングタイムが大幅に増えているので、今期は観測所時間を減らさざるを得ないという観測所の判断が説明された。

議論の結果、43夜の観測所時間が認められ、共同利用に供する夜数は109夜となった。

4.3 プロジェクト観測 (継続) の審査

- 3年目 (最終年) に入った。順調に成果が出てきている。
- 終了時の展望は？ → 現在数個の候補が見つかっており、終了時にはこれらの決着がついているであろう。
- 夜数は前は競争率が高かったため、削らざるを得なかったが、是非要求夜数を満たして、完成させるべきである。

議論の結果、今期は要求通り36夜認めることとなった。

4.4 学位論文支援プログラムの審査

レフェリーの評点、コメントを基にサイエンス、テクニカル両面から申請課題を吟味し、学位論文支援プログラムとして採択するか、議論が行われた。その結果、今期は一般観測として採択し、次回、さらにプロポーザルを改善して出してもらおうのがよいのではないか、という意見で一致した。

[学位論文支援プログラム制度についての議論]

- 複数の申請が出ると期待していた。今期は出しにくい時期だったのかもしれない。
- 今回の場合、M1の申請であり、プロポーザルの質がやや低いのはしかたないところもある。これを厳しく審査すると、M1の申請は採択されないことになってしまわないか？→
 - － 博士、修士どちらに力点を置くか、ユーザズミーティングで議論されたがまとまらなかった。
 - － M1にとって厳しいのは、従来の一般観測も同じで、このプログラムの主旨としては、修士課程の学生に甘くする必要はない。
- 来期も今期と同様に募集を行い、申請状況を見ることとなった。

4.5 一般観測の審査

議論を経て、以下のように割当夜数を配分した。

代表者	課題名	割当夜数	備考
佐藤 文衛	視線速度精密測定による G 型巨星の惑星サーベイ	36 夜	プロジェクト (継続)
竹田 洋一	太陽類似星の高分散分光観測 : Solar Twin 星の検出に向けて	10 夜	
比田井 昌英	惑星を持つ星の α 元素と鉄族元素の組成	14 夜	
安藤 裕康	巨星の星震学の試み	9 夜	
豊田 英里	ドップラーシフト法による連星系の系外惑星探査	14 夜	
大石 奈緒子	早期型高速自転星のスペクトル線輪郭解析	7 夜	
永江 修	マイクロクエーサーの可視直線偏光成分の検出と偏光起源の特定	12 夜	
Shi, Jianrong	Si abundances in metal-rich stars: Testing of Si atom model	3 夜	
船山 日斗志	プレアデスに属する若い恒星の金属量	4 夜 (8 前半夜)	*

*: 学位論文支援プログラムとして申請されたが一般観測として採択された

以上、一般観測の採択は 8 件、合計 73 夜。

5 その他

(1) 研究代表者の名前を伏せたレフェリングについて

- レフェリーの評価に、研究代表者の名前が影響を与えているのではないか、という意見が出された。提案の内容に不備があっても、研究代表者がよく知られた人だと、不備を指摘せずに高い評価を与えてしまうおそれがあるのではないか、というもの。
- 議論の結果、次期の公募ではレフェリーには研究代表者名を知らせずに評価をしてもらうこととなった。研究代表者(および指導教官や共同研究者)の名前が特定できる情報はカバーシートにまとめ、レフェリーにはカバーを渡さずにレフェリングしてもらう。
- 過去の観測達成状況や出版状況も省くこととなるが、これらについてはプロ小が責任をもってみることにする。
- 次回公募開始までに申請書のフォーマット改訂とアナウンスが必要。

(2) レフェリーの選定について

ここ数年は、プロ小委員長とプロ小幹事が相談してレフェリーの適任者を選定し、依頼していた。より適切なレフェリーを選定するため、プログラム小委員会でレフェリーの候補者の名前を挙げてリストを作成し、申込状況に応じてプロ小委員長と幹事がコンタクトをとって、その時のプログラム小委員会でレフェリー名を知らせる(個々の評価についてどれがどのレフェリーかは明らかにしない)、という方法にすることとなった。これを受けて、次回のレフェリー候補者名を分野ごとに挙げた。

(3) 観測所視察

会議の翌 26 日、岡山天体物理観測所の視察 (188cm 望遠鏡、ISLE、OAO-WFC、50cm、環境モニタなど) を行った (長田、竹内、中村、村山)。

以上